

千里国際学園 中等部・高等部

シリーズ「世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」

第11回 What is International Education ?

SIS & OIS 社会科 / シヤミ・ダッタ

皆さんは「国際教育」とは何なのか、考えたことがありますか？海外滞在中は特にこのことに関して考えるきっかけが多いと思います。

私はインド出身ですが、15年前に千里国際学園（SIS）で社会科を教え始めたころ、日本の教育界では「国際」という言葉をよく耳にしました。現在も日本は世界第2位の経済力を誇りますが、日本で教育を受けた若者が日本と世界の両方で活躍できるような教育が課題となっています。

SIS/OISでの国際的教育の大事な一部分は生徒が日本、又は世界のどこに進学しても通用する学習・リサーチスキルを身につけることです。又、世界のどこで働くことになっても必要になってくる基礎的な力があります。たとえば、

自分の分野では何が大事かを見定める力！

問題があればそれを解決する力！

わからないことがあればそれを様々な視点から調べ、人に伝える力！

これらを学校という環境で自ら身につけていくこともSISの生徒・教師が作っている国際教育です。カリキュラムや教師はその環境を整え、常にいるガイドであって、世界に通用する自主性が育っていくというのもSISの国際教育の大事な部分です。

さて、いったいどうやってこんなスキルが身につくのでしょうか？SISでは様々なことが重ねあってそんな教育が実現する環境ができています。そのいくつかは今までの連載でも詳しく紹介されています。たとえば：

1. 様々な背景・考え方を持つ教員・生徒集団が日々その違いを乗り越えて教室の中と外で共に学んだり、数多くの行事を作っています。
2. Osaka International School (OIS) では国際カリキュラムとしては世界的にもっとも高い評価を得ているInternational Baccalaureate (IB) を小学校から高校まで実施しています。SISでも可能な範囲でIBの考え方を取り入れ、OISとの合同授業も行っています。それに加えて、世界・日本の様々な地域での教師経験のある

教員集団が常にカリキュラムのさらなる充実を図っています。たとえば、数年前より授業の学期完結制によって授業の種類や生徒の選択の幅が増えました。

3. 英語教育を充実し、生徒が自分に合うレベルの英語の授業を受けられます。
4. 英語・日本語以外の言語も学べる機会があります。
5. スポーツ・音楽等の国際大会（APAC）に参加し、異なる環境で学ぶteenagersと競い合ったり、又は色々な壁を乗り越えて一つのものを作っています。

上記のような学校全体で取り組んでいることはこれ以外にもたくさんありますが、ここでは社会科の中で工夫しているいくつかのことを書きます。社会科では上に述べたようなSISの国際教育の実現のためにはまず日本と世界のことを深く知ることが大事と考えています。その上で、その知識について考える力、分析する力、そして場合によっては議論の中でそれに対して疑問を投げかけ、問う力が必要だと考えています。つまり、

Knowledge（知識）のwhat, when, where, who, howだけではなく、whyとeffectsにも重点を置いています。

たとえば

1853 - 54年のペリーの来日を見る時に、いつ、どこで、誰が、何をしたのかだけではなく、なぜその時にアメリカが日本の開国にこだわったのか？

なぜ日本では様々な反応があったのか？

この出来事によって幕末の日本がどのように、又なぜ変わって行ったか？

150年以上も前の出来事だが、その後から今現在までどんな影響を与え続けているか？

昔のことが今の私たちの世界とどうつながっているのか？

これらのことを教師がすべて答えを教えるのではなく、生徒と共に考えながらまとめて行きます。SISの生徒は難しい「なぜ」という問いにも答えを出してくれます。様々な視点から大昔のことでも現在との結びつきを見つけてくれます。